

第 130 回市議会（定例会）一般質問通告書

（令和 5 年 3 月 1・2 日）

順番	質 問 の 内 容		議席 番号	氏 名
	表 題	具 体 的 内 容		
1. 会派に属さない議員		5 名	14 件	
立 憲 民 主 党				
	◎一問一答			
1	<p>1 地域公共交通の再編による、JR大船渡線の存廃等について</p> <p>国土交通省は、地域公共交通の再編に向けて関連法改正案の骨格をまとめました。主な内容は「再構築協議会」の設置や、実証計画の策定・実証事業の実施、再構築方針作成などとなっています。本市では、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の規定により、昨年 8 月に「第 2 次気仙沼市総合交通計画」を策定し、公表しました。計画は、本市の将来を見据えて、公共交通が果たすべき役割を明確化し、地域課題解決の取り組みなどが明記され、実施計画を別途作成し、公共交通再編事業を実施するとしています。特に、市民アンケート結果などを参考に、現状の公共交通の抽出された課題は、利便性の向上や交通不便地域の対策、交通手段ごとの役割分担、利用促進、持続可能な交通体系の構築など、来訪者への対策でありました。そこで、鉄道や BRT に特化して、以下の点について伺います</p> <p>(1) 国が示している「再構築協議会」の設置について市の考えを伺います</p> <p>(2) 存続に向けた、JR大船渡線沿線自治体や関係諸団体との連携策について伺います</p> <p>(3) 震災後に運行されている、JR大船渡線、JR気仙沼線の利便性を高めるための BRT 運行計画の見直しの必要性について伺います</p> <p>2 マイナンバーカードと健康保険証との一体化の対応策について</p> <p>政府は、現在使われている健康保険証を来年の秋に廃止し、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に切り替えることを発表しました。加えて、自動車運転免許証との一体化の時期についても、当初予定</p>	23	村 上 進	

1	<p>していた令和6年度末から前倒しする方針も示されました。しかし、この一体化の前提は、カード取得が完了することになります。そこで危惧される、以下の点について伺います</p> <p>(1) マイナンバーカード取得率は、直近でどの様に推移しているのか、国・宮城県・本市の状況を伺います</p> <p>(2) カード取得が未了か未申請で、紙ベースでの健康保険証と混在することになるのか伺います。また、保険料の未納に伴う、資格証明書などの発行事務処理対応を伺います</p> <p>(3) 医療機関や薬局などのカード受入れ状況と準備状況について伺います。また、対応する窓口業務がスムーズに行われるのか伺います</p> <p>(4) カード紛失時における医療機関や薬局窓口での自己負担は、保険適用とされるのか伺います</p> <p>(5) マイナンバーカードと健康保険証一体化のメリットやデメリットの周知が不足していると考えるが市の見解を伺います</p>	23	村上進
公 明 党			
2	<p>◎一問一答</p> <p>1 高齢者介護について</p> <p>(1) 本市では令和4年9月末現在、高齢化率39.8%となっており、大島地区においては、53.6%と高い数値となっております。これから、ますます介護や医療、福祉が重要になってきます。市内においては地域包括支援センターが6か所に設置されており、各関係機関と共に支援に従事していただいております。この介護・福祉に関する様々な課題がある中、在宅介護における家庭内での介護者の負担が大きく、時には仕事をやめざるを得ない状況があります。この重要な課題に向き合い少しでも負担軽減につなげる事が重要だと思ひ以下について伺います</p> <p>①第8期気仙沼市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基本目標への取り組みと現状を伺います</p> <p>②在宅介護をされている方の悩んでいる声を共有し、反映するための課題と今後の取り組みを伺います</p> <p>2 生活保護について</p> <p>(1) 令和4年3月の生活保護世帯数は403世帯、保護人員490人、保護率8.21パーミルとなっております、</p>	10	白川雄二

2	<p>年々増加傾向になっております。申請に悩んでいる本人からすると、これから先どうしたらいいかわからず、人生に希望を見いだせずにあります。担当課に相談に行くのも勇気があることと思います。そこで以下について伺います</p> <p>①委託先「ひありんく気仙沼」へ繋げているケースもあるかと思いますが、その成果・課題について伺います</p> <p>②相談窓口に来た市民に対して正確な情報提供を分かりやすく、また何より「誰一人取り残さない」寄り添った対応をするために、どのような取り組みをしているか伺います</p> <p>3 ドローンの活用について</p> <p>(1) 現在、日本のみならず世界においてドローンが様々な形で活用されています。カメラで景色を撮影したり、広範囲の畑に肥料を散布したり、防災のために活用したりなど幅広く活用されています。これからますますドローンの活用が注目されていくと思います。以下について伺います</p> <p>①特に大島の自然を生かした観光PRとしての活用について市の見解を伺います</p>	10	白川 雄二
---	--	----	-------

立 憲 民 主 党

3	<p>◎一問一答</p> <p>1 高齢者の転倒予防対策等について</p> <p>3年ごとに実施されている厚生労働省の国民生活基礎調査では、介護が必要になった主な原因として、「骨折・転倒」が平成13年から平成28年の調査において9.3%から12.1%を占めており、認知症や脳血管障害等に続き第3位から第5位を占めています。転倒による介護リスクの増加を招かないための取り組みについて、以下の点について伺います</p> <p>(1) 介護予防事業にあたり、転倒予防の観点が含まれているか、伺います</p> <p>(2) 高齢者の運動機能向上に向けた事業や講習は行なっているか、伺います</p> <p>(3) 居宅の転倒防止や整理整頓について啓発・支援が行なわれているか、伺います</p> <p>(4) 日本転倒予防学会が制定している10月10日の転倒予防の日に啓発の取り組みを行なうことは検討できませんか伺います</p>	20	小野寺 俊 朗
---	---	----	---------

3	<p>(5) 骨粗鬆症が原因で起こる高齢者の骨折の予防について、取り組み状況と啓発について伺います</p> <p>2 認知機能の低下の予防と支援の取り組みについて 高齡化の進展により認知症高齢者の増加が予測され、その予防が喫緊の課題とされています。認知症を予防するためには、その前段とされる「軽度認知障害（MCI）」や、それ以前の時期に認知機能低下を抑制することが重要であると言われています。そこで、認知機能低下の予防・支援の取り組みについての現状を伺います</p> <p>3 口腔機能の向上の取り組みについて 口腔環境の変化が、要介護認定や死亡のリクスを高めることがあると言われており、口腔機能の向上に関する取り組みが必要と認められています。そこで、本市の取り組み状況を伺います</p> <p>(1) 口腔機能向上の必要性についての周知や学習などの講演会、研修会の実施状況を伺います</p> <p>(2) 歯科衛生士等の専門職による、口腔衛生・口腔機能に関する講座や自主トレーニングの指導等を実施できないか伺います</p>	20	小野寺 俊 朗
無 所 属			
4	<p>◎一問一答</p> <p>1 大島公民館と大島みどりのふれあい広場について</p> <p>(1) 大島公民館は建築から49年経過し、地区住民から新築が求められておりました。しかし、財源等を考えると現実的ではなく、市当局より旧大島中学校校舎を利活用する案が2月5日に提示されました。この提案内容を改めて尋ねます</p> <p>(2) 教育委員会の管理下に「大島みどりのふれあい広場」があります。平成4年3月に完成し、野球グラウンド、陸上競技トラック、テニスコート、遊具施設等が設置され、地区運動会やパークゴルフにも利用されています。完成から30年以上を経過し、野球グラウンド等の施設劣化が目立ちます。その中でも特にトイレの劣化が顕著です。和式であり、冬季は凍結の恐れがあり使用できません。大島住民のためだけでなく、大島を訪れる方々のためにも、新しい洋式水洗トイレを公民館整備と併せて造れないかを尋ねます</p>	13	熊 谷 雅 裕

4	<p>2 気仙沼市義務教育環境整備計画について</p> <p>(1) 教育長は「現計画実現に全力を尽くし、しかるべきときにその状況を見極め、新たな統合計画を検討する。」と答弁してきました。2月9日の条南中学校地区懇談会で渡された資料に「令和6年4月の統合を目指しております。」と明記されています。唐桑小と中井小の統合は令和6年4月と決定し準備が始まり、津谷小と小泉小の統合も令和6年4月を目指しています。教育長の言われる「しかるべきとき」とは、上記の統合が完了したときのことを言っているのかを尋ねます</p> <p>3 大島の道路について</p> <p>(1) 令和4年6月議会の一般質問で「十八鳴浜入口までの市道大初平1号線の工事について、早期着手をはかります。」との答弁がありました。しかし未だに着手されておらず、その後の進捗状況を尋ねます</p> <p>(2) 大島大橋開通の以前から懸案であった大向1号線、15号線、17号線等の舗装工事について、開通前の完成を要望して来ました。遅れながらも舗装が進み、大向地区においては15号線を残すのみとなりました。しかし、一昨年度中完成の予定が今年度中にずれ込んでおり、そして未だに工事発注がなされておられません。これまでの経過とこれからの進捗を尋ねます</p>	13	熊谷雅裕
日 本 共 産 党			
5	<p>◎一問一答</p> <p>1 義務教育環境整備について</p> <p>(1) 条南中学校と気仙沼中学校の統合にかかる市民との約束について</p> <p>①市内循環バスを登下校に利用する約束について</p> <p>②いじめ・不登校の未然防止につながる考え方について</p> <p>(2) 世界保健機構（WHO）や海外で推奨する少人数学級について</p> <p>①当市のADHD（注意欠如・多動症）への対応について</p> <p>2 災害公営住宅の収入超過限度額引き上げと家賃低減延長について</p>	19	秋山善治郎

5	<p>(1) 政令月収の収入超過限度額の引き上げについて (2) 家賃低減延長について</p> <p>3 福島原発ALPS処理水（放射能汚染水）海洋放出による影響と対策について</p> <p>(1) 多核種除去設備（ALPS）で除去できない放射性核物質について (2) 海洋放出した場合の対策について (3) 海洋放出以外の方法探求について</p>	19	秋山善治郎
2. ニュービジョン		1名	2件
6	<p>◎一問一答</p> <p>1 地産地消について</p> <p>(1) 学校給食における原材料の市内産使用率について 「人口減少対策パッケージ」として、小中学校の学校給食の無償化及び食物アレルギーなどの特別な事情により給食の提供を受けていない児童・生徒の保護者等に対しても同等の助成を行うことで約2.35億円の所要経費見込みを算出していますが、過去と現在の学校給食における市内産原材料の使用率を伺います。また、今後の目標として市内産原材料使用率の数値をどの程度まで掲げていくのか伺います</p> <p>(2) 学校給食へ地元業者の水産加工品の採用について 学校給食法には、「7つの目標」が掲げられています。その目標の5つ目「食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと」6つ目「我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深めること」7つ目「食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと」とあり、この目標に本市としては、「魚食健康都市宣言」「気仙沼スローフード」都市宣言があり、更に「食育推進計画」で具体的な推進方法が記されています。しかしながら、学校給食においては、栄養士はじめ給食センターの職員が知恵を絞って、給食費の範囲内で食材を定め、提供していると思われます。将来、気仙沼を担うであろう小中学生に「地元業者の水産加工品」を学校給食に採用し、一年に数回ワンランク上の食材を提供できるよう給食費とは別枠で（仮称）地産地</p>	4	遠藤秀和

6	<p>消推進費を取り入れることはできないか伺います</p> <p>(3) 〈仮称〉地産地消推進条例の制定について 近年、全国の自治体において、「地産地消」にかかわる条例が制定されております。本市においても、「気仙沼市食文化の振興に関する条例」がありますが、これを改訂して、より詳細部分を加えていくか、もう一步踏み込んで〈仮称〉地産地消推進条例として、本市における地産地消を推進するための基本理念並びに市、生産者、事業者及び市民の役割を明らかにするとともに地産地消を通じ、農林水産物に係る食の安全性を確保し、食育、朝食の大切さ、また、地元酒等による乾杯を推進するなど推進体制を構築することにより、本市における農林水産業の振興及び健全な食文化の継承を図り、食と農林水産を基本とした健康で文化的な地域社会の形成に資することができるものと思っています。これを調査・研究し、本市において〈仮称〉地産地消推進条例の制定をする考えはないか伺います</p> <p>2 市道の維持管理について</p> <p>(1) 小規模維持補修について 先般、気仙沼市道路整備計画が策定され、実施に向けて鋭意努力中のことと存じます。これとは別に、令和3年度及び4年度における市民からの修繕要望や道路投稿アプリでの件数及び対応済み件数について伺います。また、道路を長寿命化させるためには、小規模段階での修繕が必要不可欠と考えますが、市の考えを伺います</p> <p>(2) 維持管理に係る予算規模拡大について 過去3年間の当初予算書ベースでの道路維持修繕費は、ほぼ同様の額となっています。財政事情は察しますが、道路維持管理に係る予算を拡大する考えはないか伺います</p>	4	遠藤 秀和
---	--	---	-------

◎一問一答

1 学校教育と行政サービスから見る本市のスポーツ振興の向かう先について

令和4年12月定例会で質問した事項を含めたスポーツ振興策に関し、来年度以降に向けた方針について4点伺います

- (1) 「フェンシングのまちKESENNUMA」に向けた取り組みとして、①官民推進協議会の設置、②拠点としての専門練習場設置、③全国規模大会の誘致の3点を提案しましたが、今後の取り組みについて市の見解を伺います
- (2) フェンシングに限らず、各競技の全国規模の大会出場者に対する旅費等の補助について市の見解を伺います
- (3) 中学校の部活動の地域移行は、教員の指導と負担の問題が焦点となる一方、生徒の選択肢という観点も重要な論点です。他市の取り組みとして生徒が既存の部活動にない競技に打ち込める体制として「総合部」を設ける学校がありますが、地域移行に関連させた市の見解を伺います
- (4) 静岡県沼津市のスポーツ行政は産業振興部ウィズスポーツ課が所管しております。スポーツを市民の生きがいや教育の観点を超え、人々のつながりやにぎわいを生み出していくものと捉えた場合、これは優れた体制であると考えますが市の見解を伺います

2 パートナーシップ制度制定に関する市内外の取り組みについて

最近、パートナーシップ制度や同性愛について国政レベルの論議が報道されています。地方においては2月現在、パートナーシップ制度の導入自治体は255を数え、人口カバー率は6割を超えました。全国的な関心が高まる中、本市の同制度への取り組みについて2点伺います

- (1) 一関市は昨年12月に岩手県で初めて「いちのせきパートナーシップ宣誓制度」を導入したところ、先月1組の同性カップルがパートナーシップ宣誓をしたことを公表しました。隣接自治体である本市の見解や今後の取り組みについて伺います
- (2) 第126回定例会において、市長から「パートナーシップ制度制定に際しては市民の皆さんに違和感

7

9

熊 谷 一 平

7	<p>があってはいけない」旨の答弁がありました。今後、市民の違和感や思いをどのように受け止め施策に反映させていくのか市の見解を伺います</p> <p>3 持続可能な消防団の体制と活動について</p> <p>消防団が本市における地域防災の要として機能していくために体制と活動の観点から次の2点について伺います</p> <p>(1) 団員が誇りとやりがいを感じ活動してだけでなく、新規加入の団員を増やしていく方策として、団員の意識を聞き取り施策に反映させる取り組みが有効と考えますが市の見解を伺います</p> <p>(2) 平常時における消防団の諸活動は、伝統と長年の蓄積に裏打ちされたもので、団員の普及啓発による予防、訓練による団員資質の向上、行事による組織の結束等の点で意義がありますが、団員の負担軽減という点から活動の簡素化、合理化の余地が見られるものがあるとも考えられます。この点について市の見解を伺います</p>	9	熊谷 一平
---	--	---	-------